YouTube を利用した MS Forms によるオンデマンド型授業の構築
―資格中国語における授業実践より―

永江貴子*1
Email: tnagae@ner.takushoku-u.ac.jp

*1：拓殖大学外国語学部中国語学科

◎Key Words　ICT　YouTube　MS Forms オンデマンド型授業

1.　はじめに

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大により、国際的な移動が厳しく制限され、海外からの教員の招聘が難しくなった。本発表者所属の学科でも、中国から教員を招聘していたが、このコロナ禍により入国が困難な状況が続いている。中国語を主専攻とする学生も未だ中国に留学できない。

中国において、中国語を学習するために留学生は入国できず、また中国語教育を担う教員も各国への移動が制限されているため、中国語学習者向けのオンライン授業が盛んになっている。北京大学の対外漢語教育学院の教員により漢語水平考試（以下、HSK と称す）**エラー! 参照元が見つかりません。**対策講義の動画が、YouTube にアップロードされている。この中には、発表者の大学に過去に招聘した教員や招聘予定だった教員も含まれている。以上の教員から許可を得た上で、これらの動画を Microsoft Forms(以下，Forms と称す)に組み込み、更に関連問題を入れた学習システムを作成しオンデマンド型授業で活用した。本発表では、その試みと問題点を報告する。

2.　オンライン中国語教育に関する先行研究

コロナ禍におけるオンライン中国語教育について中国では様々な特集が組まれた。オンライン中国語学習のシステム面に言及した論稿を中心にまとめ、その問題点を述べる。

陆俭明（2020:1）[2]は“加速开发研制、建设灵便多样、有效的网上 / 线上汉语国际教育资源。”（ユーザビリティが高く効果的なオンライン上の中国語教育資源の開発・構築を加速する）ことが重要な対策の 1 つで、同時双方向授業やオンデマンド型授業、MOOC 等の各種オンライン授業に言及している。そして“如今需要进一步加速开发研制能应对多个语种、板块布局更为合理、链接跳转更为灵便的更具创新性的汉语国际教育网上 / 线上资源。”（現在では多言語対応、モジュールの最適化、リンクのしやすさなど更なる創意を加えた中国語教育のオンラインリソースを開発することが必要とされる）と指摘する。また李先银(2020:15-16)[3]は“线上教学的未来发展走向与平台建设”（オンライン教育の今後の方向性とプラットフォーム構築）という題で“未来的教育样态有三种：独立的线下教学、线下线上结合的混合式教学、独立的线上教学。”（今後の教育形態はオフライン単独の授業、オフラインとオンラインを組み合わせたブレンド授業、オンライン単独の授業の三種類である）と指摘し、更にオンライン授業で用いられる WeChat や Zoom など様々なプラットフォームを紹介した上で、教員と学生のフィードバックによると既存のプラットフォームは何らかの支障があると述べている 。また李宇明（2020:437-438）[4]では、“新冠疫情促使中文教育转移到线上。”(コロナ禍は中国語教育のオンライン化を促した)と指摘し、更に“线上中文教育业将常态化。”（オンライン中国語教育は常態化した）という。その一方で、注意すべき点として、まず“要提升线上教学效果”（オンライン教育の効果を向上するべきだ）としている。その中には“开发适合教学的专用软硬件，集聚整合教育资源”（教育・学習に適した専用のハード・ソフトの開発、教育リソースの集結・統合）が含まれている。崔希亮（2020:296-297）[5]において、こういった世界的な公衆衛生の突発的な事の下での中国語教育について、その対策の 1 つとして“加强网络环境语言教学的理论与实践研究”(インターネット環境下の言語教育の理論的・実践的研究の強化)を挙げている。

コロナ禍の中国語教育面で王辉（2021 : 16-17）[6]では問題点をいくつか挙げている。中でもシステム面として、学習者参加度の不足を述べている。“线上学习具有便捷性、灵活性、自主性等特点，全球各地的学习者可随时随地参与。”（オンライン学習は敏捷性・迅速性・自律性等の特徴があり、世界各地の学習者が時間と場所に左右されず参加できる）という。しかしながらオンライン学習は各種問題があり、例えばシステム面に関して“学生的网络信息素养不一，对教师采用的线上教学平台的操作可能不熟练”(学生によってネットリテラシーが異なり、教員が準備したプラットフォームの操作を熟知していない可能性がある)という。“教学平台多种多样，学生对如何利用平台功能和网络资源进行有效学习缺乏了解，难以与教师的教学设计形成良好配合。”(学習プラットフォームの多種多様により、学生がプラットフォームの機能とネットのリソースをいかに利用して効果的な学習をするかについて理解が不足しており、教員による学習計画にはつり合いが取れない危険性がある）としている。更に王辉（2021 : 20）では、対策の 1 つに“完善线上教学平台中文教学质量的重要保障”（学習のプラットフォームを完備することが中国語教育の質保障に重要である）とし、“增强操作上的友好性和便利性”（操作上のやさしさと利便性を強化すべきだ）と説いている。

コロナ禍により中国語教育のオンライン化が促進され、ポストコロナの中国語教育もオンライン化を取り入れながら実施されることが予測される。しかし現在のシステムはまだ改善すべき点が多々あり、更なる創意工夫がなされ、理論的・実践的研究を行っていくことが求められている。

3. YouTube を利用した授業実践

3.1 HSK の講義動画

現在、YouTube 上で “Learn Chinese”というチャンネル[7]には中国語の学習動画がアップロードされている。その中に、HSK の 1 級～6 級の講義動画がある。これは、北京大学の対外漢語教育学院の教員による講義で、各級の試験概要、リスニング・リーディング・ライティングに分けた細かい説明、それぞれの解答解説といった大変内容豊富なコンテンツになっている。

図 1 YouTube 上の HSK 講義動画

なお、この解答解説を担当している教員は発表者の大学に過去に招聘した教員や招聘予定だったが新型コロナウイルス感染症拡大により来日が不可能になった教員も含まれていた。そこで、北京大学の教員にこの YouTube の授業利用可否について聞いたところ、「(ダウンロードしたりせずに) ネット上で視聴するのは問題ない」といい、「これは HSK 慕課課程 (MOOC) で、外国人中国語学習者のために公開されている動画」であるからだとのことだった。また著作権などについて、「新型コロナウイルス感染症拡大のため、やむを得ない措置に入るのではないか」との意見も聞いた。従来、中国から招聘していたネイティブ教員の授業が受講できず、更にその渡航が予定されていた教員や過去に招聘した教員が講義した動画ということで、中国語ネイティブスピーカーの教員による講義を味わってもらうべく、この動画を活用して授業に組み入れることとした。

3.2 資格中国語における講義動画の活用

本発表で扱う「資格中国語」という科目は、2021 年度の前期は中国語検定試験対策[8]、後期は HSK の対策をオンデマンド型授業で実施した。後期の HSK 対策では、HSK という試験の概要を知り、目指す級を合格することを目標としたものである。

この科目は 2019 年度までは対面授業で実施されていたが、2020 年度は新型ウイルス感染症の影響で遠隔授業となり、オンデマンド型授業を実施した。2021 年度も引き続き、オンデマンド型のみで行うことになった。その際、オンデマンド型授業について実施要件が細かく定められた。表 1 を参照されたい。

表 1 オンデマンド型授業の実施要件

項目	説明
使用ツール	原則「Blackboard」使用
掲出開始曜日	原則として設定された「掲出開始曜日」の前日までに掲出
授業資料	①前週授業のフィードバック、②今週授業資料、③今週授業課題、④次週授業予習
出席確認	③今週授業課題
課題締切	「提出開始曜日」から原則 3 日間

Blackboard（以下、Bb と称す）という LMS (Learning Management System; 学習管理システム)に、時間表で設定された「掲出開始曜日」の前日まで授業資料をアップロードすることになった。ここで提示した③今週授業課題により、出席確認をした。この提出課題について、「学生に過度の負担とならないよう、出席の確認ができる程度の課題（感想や授業コメント、簡単なレポート等）とするように配慮が求められた。また課題の締切は原則 3 日間となっていたが、「担当教員の判断で引き伸ばし可・日曜日は除く」という補足もあった。

では、LMS から先に挙げた HSK の講義動画を視聴でき、かつ授業課題を設定するために、いかなる方法を用いたら良いか。2020 年度の資格中国語の授業で Bb に解説サイトや学習サイトなど様々なコンテンツ掲出したが、学生にとって使い勝手が悪ければ活用はせず、使用したとしても、時間の関係でじっくり学習しないことが明らかとなった[9]。そのため、2021 年度前期の資格中国語の授業では、Bb では実施する Forms のリンク先のみ提示し、クリックすると、図 2 のように Forms の画面が開くように設定した。

図 2 Bb と Forms 表示画面

この Forms の中に解説動画や課題を組み入れた。1 つのサイトの中に解説動画や課題を入れることで、学生の操作の煩雑性を減らし、使いやすさが向上し前年度比で課題未提出の学生が減少した。

Forms は YouTube とリンク付けた動画を視聴できるため、先述の授業実践を応用して中国の HSK 講義動画を活用した授業を構築した。

4. HSK 動画をリンクした Forms による授業

4.1 資格中国語（HSK 対策）の授業方法

後期の資格中国語は、目標として「HSK の問題形式に慣れ、自身のレベルに応じた級の合格を目指す」ことで、授業で扱う範囲として「HSK4 級、5 級、6 級の対策問題」とした。全 15 回であったため、HSK4 級が 5 回、HSK5 級が 5 回、HSK6 級が 5 回とした。その 5 回の詳細は、次の

表2の通りである。

表2　授業の実施詳細

項目	説明	課題点
第1回-第4回	HSK動画視聴と課題提出	5点
第5回	第1回-第4回のまとめ課題	13点/14点

それぞれ4回の授業動画視聴を課し、その動画に基づいた課題を提出し課題点をつけた。第5回目はまとめの回とし、第1回から第4回で学習した内容に基づいた課題を出した。成績はオンデマンド型授業であるため、全て提出された課題点により採点した。第1回から第4回は満点が5点、第5回は課題の難易度と問題数によりHSK4級と5級が満点が13点、HSK6級は満点が14点にし、全て満点ならば100点になる計算である。締切日を過ぎた場合は、一律0点とした。

学生の授業動画や課題実施までの煩雑さを軽減するため、BbにはFormsのリンク先のみ提示した。

図3　Bbの掲出画面

Bbの掲出画面ではFormsのリンク先と諸注意を表示した。また選択授業であり、学生によって中国語のレベルも異なるため、必ずHSKの動画のスクリプトと日本語訳も同時に添付した。HSK4級の動画はwordで3、4ページぐらいであったが、5級、6級と級が進むにつれ内容が難解になったため日本語訳に説明も付け加えたため、訳文がwordで10ページを超えることもあった。

次の図4がFormsの画面である。

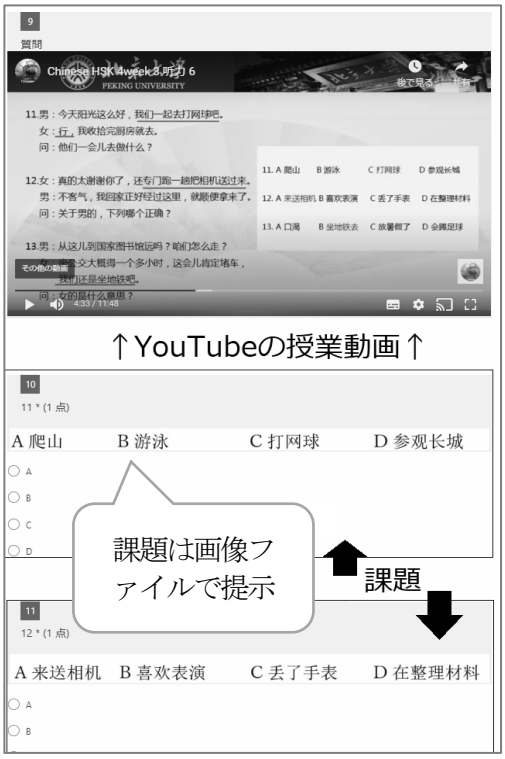

図4　Forms（第1回～第4回）の画面

Formsに YouTube を表示させ、更にそれに関連する課題を作成した。中国語の漢字は文字化けして日本語の漢字になってしまう可能性があるため、課題は必ず画像ファイルで提示した。

なおFormsでYouTubeを表示する方法は、図5を参照されたい。

図5　FormsへのYouTube表示方法

まず①「メディアの挿入」をクリックし、②「ビデオの挿入」をクリックし、③URL のボックスに表示したいYouTubeのリンクを貼り付け、「追加」をクリックすると、図4のように授業動画がFormsで表示される。

HSKの授業動画は1本当たり15分から20分であったため、第1回から第4回の授業は1回の授業でだいたい4、5本の動画をアップロードした。課題の問題数は動画に基づいて20題や25題など5の倍数で作成し、5点満点になるように成績を出した。

第5回のまとめの回は、第1回から第4回で学習した内容をもとに、図5のような問題を出した。

図5　Forms（第5回）の画面

学習内容に基づき、選択式もしくは入力式の問題とした。日本語のブラウザで中国語を入力すると、日本語の漢字に文字化けしてしまうが、Formsでは集計されることを学生にも事前に伝えておいた。

4.2　授業実践の結果

本節では、資格中国語における授業実践の結果について、述べていく。まず、授業の履修人数は37名、平均点が75.3点であった。受講生は中国語学科の2年生が12名、3年生が22名、他学科の学生が3名であった。

中国語学科の34名についてSPSS[10]を用い、2年生と3年生の提出率の差と中国語の検定試験と提出率の相関関係を求めた[11]。なお、検定試験取得級のデータが取れなかった他学科3名は、この分析から除外した。

まず平均点について、2 年生は 81.6 点、3 年生は 70.0 点で 2 年生の方が高かった。SPSS による t 検定は以下のようになった。

有意確率＝ 0.114 ＞ 有意水準 0.05

そのため、母平均に差がある、即ち 2 年生と 3 年生に差があると言えない。その要因として、2 年生でこの授業を選択する履修者は、3 年生に匹敵するような中国語能力を備えていると考えられる。

また、中国語の検定試験の取得と提出率の相関関係を観察していく。中国語の検定試験とは、HSK と中国語検定試験である。HSK と中国語検定試験は中国語検定試験協会のホームページ(12)によると、「試験の目的も出題形式も異なるため厳密な比較」はできないということであるが、おおよその目安は次の通りだという。

中検	-	準4級	4級	3級	2級	準1級	1級
HSK	1級	2級	3級	4級	5級	6級	-

図 6　中検・HSK 対比表（中検ホームページより）

この図 6 を参考に、統計をかけるにあたって取得級によって次の点数で換算した。

表 3　中検と HSK の得点換算

	級	得点	級	得点	級	得点
中検	4 級	2 点	3 級	3 点	2 級	4.5 点
HSK	3 級	2 点	4 級	3 点	5 級	4 点

まず、HSK4 級を中間の 3 点とし、中国語検定試験もほぼ重なるので 3 点計算とした。HSK5 級は 4 点、中検 2 級はやや高いので 4.5 点、更に HSK4 級や中検 3 級のレベルに満たない HSK3 級と中検 4 級をそれぞれ 2 点とした。この換算で、散布図を作成すると次の図 7 のようになる。

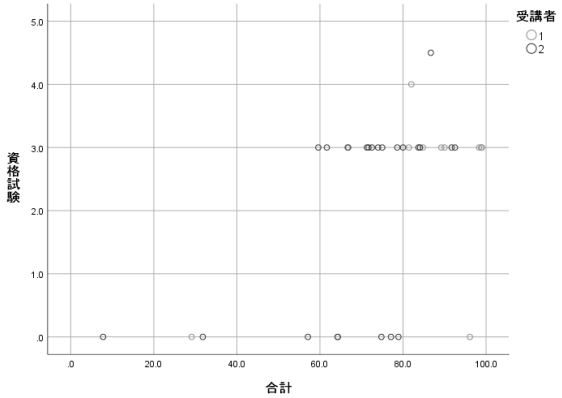

図 7　資格試験の得点と合計点の散布図

以上より、大多数の学生が 3 点以上、即ち中検 3 級もしくは HSK4 級以上を取得済みであることがわかる。更に、この検定試験と課題点の相関関係は次のようになる。

相関係数 = 0.523

有意確率 = 0.002 ＜　有意水準 0.05

したがって、資格試験の級が高いほど課題点が高いという相関があることがわかった。即ち、このオンデマンド型授業の結果は、実際の中国語能力と関係があるといえる。

5.　おわりに

本発表では、YouTube を利用した Forms によるオンデマンド型授業の構築の試みを述べた。動画を Forms に組み込み、関連問題を入れた学習システムを作成しオンデマンド型授業で活用した。その結果、オンラインではあるが、中国にいるネイティブスピーカーの中国語による授業を実現し、課題提出により理解を深めることができた。また、課題点はそれぞれの中国語の検定試験の結果と相関することがわかった。

一方で、いくつか問題点を挙げておく。まず、著作権についてである。今回は新型コロナウイルス感染症拡大のため使用できたが、ポストコロナ時代においては、動画の利用などは厳しく制限されると考えられる。次に、海外の動画も学生のレベルに合わせ、全て当該言語のスクリプトを作成し、翻訳や注釈をつける作業は時間がかかったので、何らかの工夫が必要である。以上の問題点があるが、今回の Forms を使用した学習サイトと課題が一体型になったシステムは、YouTube に講義がアップロードされていれば、授業に容易に活用でき、更に課題を設定できるため、様々な授業への応用が期待される。

6.　謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP20K00895 の助成を受けたものである。

参考文献

(1) HSK（漢語水平考試）とは中国語が第一言語ではない受験生の中国語コミュニケーション能力を考査する試験。
汉语考试服务网（中国語試験サービスネットワーク）
http://www.chinesetest.cn/gosign.do?id=1&lid=0
(2022 年 6 月 26 日参照)

(2) 陆俭明 李先银他 2020“新冠疫情下的汉语国际教育：挑战与对策”大家谈（下）《语言教学与研究》第 5 期：1-16 页（陆俭明：新冠疫情下的汉语国际教育急需采取的两大对策/李先银：线上教学的未来发展走向与平台建设――“‘新冠疫情下的汉语国际教育：挑战与对策’大家谈”代结束语）

(3) 同(2)

(4) 李宇明他 2020“新冠疫情对国际中文教育影响形式研判会”观点汇辑《世界汉语教学》第 4 期：435-450

(5) 崔希亮 2020“全球突发公共卫生事件背景下的汉语教学”《世界汉语教学》第 3 期：291-299

(6) 王辉 2021 新冠疫情影响下的国际中文教育：问题与对策《语言教学与研究》第 4 期：11-22

(7) Learn Chinese
https://www.youtube.com/channel/UCB6Okp3lWoEpN17bY1y15gg(2022 年 6 月 26 日参照)

(8) 永江貴子「「資格中国語」におけるオンデマンド型授業実践―COVID-19 下における授業対応―」、『コンピュータ＆エデュケーション』、Vol.50、pp.28-31、2021 年

(9) 永江貴子「テスト・学習の一体型中国語システムの構築」、ICT 利用による教育改善研究発表会発表要旨」、2021 年

(10) 使用は IBM SPSS Statistics ver25 である。

(11) 内田治『すぐわかる SPSS によるアンケートの調査・集計・解析第 5 版』東京図書、2016
https://www.youtube.com/channel/UCB6Okp3lWoEpN17bY1y15gg(2022 年 6 月 26 日参照)

(12) 中国語検定試験 http://www.chuken.gr.jp/
(2022 年 6 月 26 日参照)